

九州5大学医局のあゆみ

九州歯科大学 健康増進学講座口腔機能発達学分野

当教室は、昭和54年に木村光孝教授を初代教授に九州歯科大学小児歯科学講座として開設されました。木村教授は「小児期の歯内療法」「成長期顎骨に関する研究」等を中心に多くの業績を残され、日本小児歯科学会理事長など多くの役職を歴任されました。平成16年に講座再編により名称が機能育成制御学講座口腔機能発達学分野と変更になりました。平成17年3月に木村光孝教授が退官後、1年5か月間教授空席の時期がありましたが、牧憲司助教授が分野長代理を務め、平成18年7月より2代目教授に就任しました。平成24年に講座再編により、健康増進学講座口腔機能発達学分野となり、現在の医局員は、牧教授以下、講師：西田郁子、助教：日高彰子・藤田優子・森川和政・佐伯桂、歯科衛生士：中雅美、大学院4年：長尾怜美・谷口礼・本城孝浩、3年：塩野康裕・後藤翔太、2年：掘田舞佳、杉山絢子、橋口千種、1年：岸岳宏、臨床研修医：桑原真治、作間万里子、末延泰葉、角野沙織、武内彩、日高直子、竹田愛、特別研修員：内上堀伸作、榎本紋香、母里麻衣子、中村仁美、臨床登録医：竹内文乃、喜友名淳、赤司安都子、内田美和子、石田一輝の計32名で構成されています。

教育に関しては、成長過程にある小児の特異性を考慮し、健全な顎口腔機能育成のため包括的治療の理論と技能・技術を修得した歯科医師を養成することを目標とし、4年生で小児歯科学講義と基礎実習を行い、5、6年生の病院臨床実習では、参加型実習をできるだけ多く取り入れ学生が基本的な臨床能力を修得できるように努めています。大学院の研究テーマは、なるべく臨床にフィードバックできるものとし、研究だけでなく臨床のスキルアップを図り、小児歯科専門医の育成を行っています。

当教室の研究は、成長期顎骨の形態計測、乳歯及び幼若永久歯の歯内療法、歯列弓拡大に関する臨床および基礎研究、永久歯先天欠如に関する疫学、MTAセメントの臨床および基礎研究などを主としています。また、現在、本学の基礎系の研究室や3社の企業との共同研究を進めています。これらの研究成果により、日本学術振興会科学研究費補助金、富徳会助成金、九州歯科大学同窓会学術振興費等を継続して受けています。また藤田優子助教が2008年PDJ優秀論文賞、2011年に日本小児歯科学会奨励賞、橋口大輔先生が2011年デンツプライ賞、2013年は母里麻衣子先生

がPDJ優秀論文賞、中村仁美先生がデンツプライ賞をそれぞれ受賞しています。さらに、木村光孝名誉教授は、退官後の平成19年に日本歯科医学会会長賞を受賞しました。

臨床では、口腔外科、矯正科、歯科麻酔科、歯科放射線科と連携をとりながら、小児の口腔健康増進を図っています。専門医指導医2名、専門医4名が診療にあたり、1年間の外来患者数も2005年5522名から2011年8625名と大幅に増加しています。また日本小児歯科学会認定の専門医も我々の分野および同門会員より2006年以降6名取得し、地域医療の小児歯科の中核としての礎を築きつつあります。



九州大学大学院歯学研究院 口腔保健推進講座小児口腔医学分野のこの十年の変遷

このたびは日本小児歯科学会九州地方会三十周年記念おめでとうございます。

さて、九州大学歯学部は大正11年5月に発足した医学部歯科学講座が基礎となり、昭和42年6月に医学部から分離独立し、新たに歯学部として設置されました。その後、昭和54年4月に小児歯科学教室が開設され、中田 稔先生が初代教授（現名誉教授）として就任されました。その後、口腔保健推進学講座 小児口腔医学分野と改称され、平成15年より野中和明先生が教授に就任され、今年で10年を迎えます。